

新涼書を読む（菊池三溪）

秋は動く梧桐葉落つるの初

新涼早く己に郊墟に到る

半簾の斜月水よりも清く

絡緯声中夜書を読む

秋動梧桐葉落初  
新涼早已到郊墟  
半簾斜月清於水  
絡緯聲中夜讀書

解説 初秋の夜の読書の楽しみを述べた詩。

語釈 ※新涼Ⅱ初秋の涼しさ、爽やかさ。 ※梧桐Ⅱ青桐。

※郊墟Ⅱ郊外の野。 ※絡緯Ⅱこおろぎ。 ※半簾Ⅱ半分おろした簾。

通釈 秋の気配はすでに梧桐の葉の落ちそめるとき感じられ、新涼の気は早くも郊外の野に忍び寄っている。中空から斜めに簾の半分ほどを照らし出した月の光は、水よりも清らかに澄んでいる。聞こえるものはただ、こおろぎの声。それを聞きながら書を読むことは最高の楽しみである。